

学生クラブに対してアンケート調査を行なった。ここに日本のオリエンテーリング復活に向けてのヒントがある。

昨年インカレに出場した学生クラブに現状と、将来に向けてアンケートをお願いし、12クラブから回答をいただいた。比較的元気なクラブからの回答が多かったせいか、将来がやや明るい感じもした。

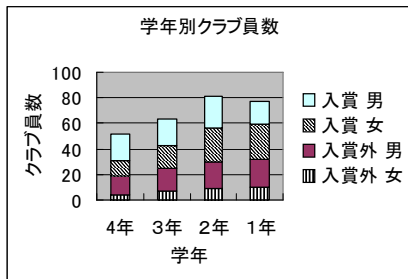
しかし、今も危機に瀕しているクラブも少なくないと聞いている。

厳しいクラブは元気なクラブの活動・意気込みを栄養にして復活の道を探っていただくとともに、地区学連を中心として、相互に助け合いながら力をつけていくことを希望します。

注) 文中に使った「入賞クラブ」は2009年度のインカレリレーで男女いずれかが6位以内に入ったクラブを示し、全5クラブ。それ以外のクラブを「入賞外クラブ」と表現しており、全7クラブである。

クラブ員数

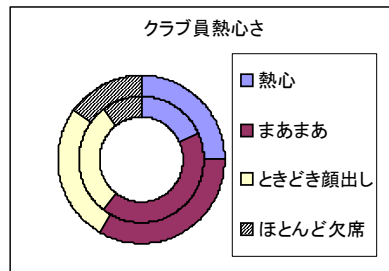
新人が減っていないか? という点に注目してみると、下級生ほど多く、ほっとする結果であった。しかし、入賞したクラブとそれ以外のクラブではクラブ員数に倍以上の差があり、クラブの活気はクラブ員数の確保にかかっているといえる。



クラブの活気

回答をいただいたクラブの75%が「まずまず」と回答をしていたが、実際はもう少しばらばらしていると思われる。

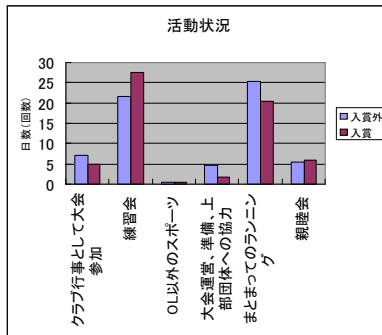
入賞するクラブはやはり熱心なクラブ員が多い。しかし、ほとんど出席しないクラブ員も多く、ついていけないというクラブ員も発生しやすいと思われる。



外周は入賞クラブ、内周は入賞外クラブ

活動状況

入賞クラブとそれ以外で、大きな差は見られないが、傾向として入賞クラブは現地での練習が多く手間をかけている。一方、入賞外クラブはランニング中心の練習がやや多い。



コーチ

入賞クラブは60%のクラブがコーチを招いているのに対し、入賞外クラブは3クラブ/7クラブ中のみ。競技力向上に対する意欲の差がでている。

コーチがいる全クラブが練習会での指導を挙げている。部誌で技術講座をしているコーチもいる。

練習会では、ルート検討やクラブ員から提出されたアナリシスに基づく指導を行なっている。

また、優れたコーチには謝礼を払っても構わないというクラブは2/3に上がった。

クラブの目標

- ・ インカレでの入賞などを目標にするクラブが8クラブ。(インカレを楽しみ、入賞を目指すというクラブもあり)
- ・ 練習会などに積極的に参加する。あるいは参加率をあげる。(3クラブ)
- ・ 部員の増加 (5クラブ)
- ・ 主催大会の成功 (1クラブ)

★成績が上がっている要因

- ・ 個人での大会参加やトレーニングをこつこつやっているからだと思う。練習会などで競技力の向上を図っている。
- ・ 上級生がオリエンテーリングの楽しさを教え、楽しんでやることを自然と行なえるようになったことが要因と思う。(同様な意見あり)
- ・ 部内での競争力がいいほうに働いている。(同意見あり)

★成績が低下している要因

- ・ (部員不足による活気低下から) 競争意欲が低下するなど、競技として熱心に取り組む人が少ない(同意見あり)
- ・ トレーニング不足

新入生勧誘

新入生への配布物にはほとんどのクラブが掲載するとともにチラシを手配りし勧誘活動を行なっている。

しかし、ポスターを作製し、掲示しているクラブは、インカレ入賞クラブはすべて実施しているのに対し、そうでないクラブは2クラブしかない。また、友達を誘うという活動にも差が出ており、パワーの違いが出ている。この結果が新入生の反応の差となって表れており、インカレ入賞クラブは反応がよいが1クラブ、まずまずが4クラブに対し、入賞外クラブはまずまず4クラブ、悪い3クラブとなっている。

効果的な勧誘方法としては、チラシ配付から親身になった説明、そして体験会に参加してもらい、食事で親しくなるという手順を踏んだ方法を上回るクラブがいくつかあった。また、ポスターを挙げたクラブも2つあった。チラシを5月末まで配付したり、教室に配って効果があったという意欲的なクラブもあった。

学連への要望

初心者向け説明パンフを作って欲しいというのが6クラブと最も多かった。新入生にわかりやすいものをつくるとなると結構、内容も質が要求され、高価なものになるため、まとめて作ると単価が下げられるからという理由と

おもわれる。

他に、ポスター作成が3クラブ、チラシ作成が2クラブから要望があった

弱体化したクラブの再生

以下のような声があり、再生のために協力しあうことに高い意欲が見られた。

クラブの雰囲気を活活化させることが重要であり、そのためには他クラブとの連携が必要である。声をかけ合い、一緒に練習会をやったり、大会に参加することで盛り上げていく。

また、新入生をしっかりと確保することが重要であり、勧誘活動を行う際には他クラブがチラシ配りなどを協力をして行なう。またポスターやチラシを共有化し、オリエンテーリングやクラブの活動をわかりやすくかつ楽しさを伝えるのもよい。

★他校への拡大策

他校の友達にオリエンテーリングの魅力を伝え、誘うことから始める。少人数のクラブは、他校と一緒に活動しながら仲間を増やす。大きなクラブが中心となって運動を進める。

また、地元で大会を開き身近なところから楽しさを伝えていくという意見が多かった。

★他校へ広げるためにオリエンテーリング界全体として行なって欲しい活動について以下の声があった。

- ・ 中学や高校へ広げる。
- ・ 気軽に参加しやすい大会の開催
- ・ オリエンテーリングそのものを社会に知ってもらう。そのためにはポスターなど視覚に訴えるものが効果あると思う。また、山や自然が好きで、体を動かしたい学生はいるはず。
- ・ ワンゲルなどアウトドア系のサークルに声をかけ、体験してもらう。

自由意見

- ・ 知名度が無いのが問題というわけではない気がします。スカイダイビングやロッククライミングなどという皆聞いたことがあるものでも結局やっている人は多くないし、結局始める機会があるかないかがポイントだと思う。「アウトドア」とか自然に興味がある人は結構いるので、広報の仕方でなんとかなると思っている。いま人数の少ない大学もまだ可能ではないかとおもう。しんどい競技ですが、本格的な登山にくらべれば、はじめにかかるコス

トは少なく手軽に始められるわけですし、一人で始めようと思った際に危険な目にあうリスクだって登山よりすくないわけです。あるいは走るのが好きな人にアプローチをかけるとかです。山でやるので、手軽に始められる感じがしないのが厳しいところですがそういうところも覆い隠さずアクティブな人がふらっと入ってしまうような仕組みができればいい。

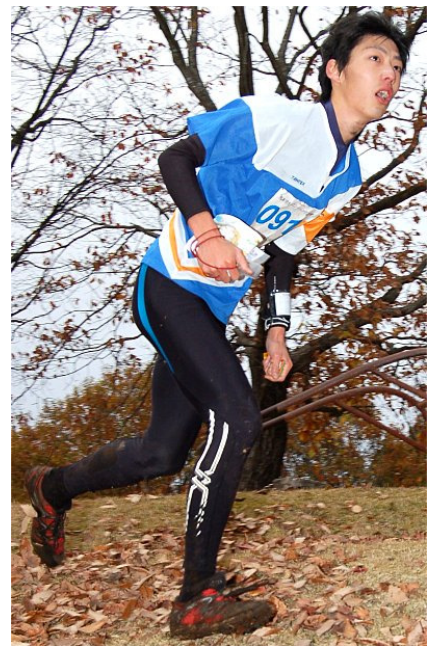
- ・ 一橋ではもっとも効果的なのはビラを教室にひたすらまくことでした。それを見て連絡をくれる人は興味を持ってくれる人なので、後にも残りやすいです。まだ少人数ではありますが、その中で濃い話し合いなどできるチームになってきており、それも強くなるために必要だと思っています。

- ・ オリエンテーリングを初めて知る人は、オリエンテーリングがヨーロッパを筆頭に盛んなスポーツであることを知らないと思います。でもこれはもったいないことで、オリエンテーリングが国際的なスポーツだということ、トレイル O やスキー O もあるし、生涯続けられるスポーツということをもっとアピールしていてもいいのではと思う。大学に入って何か新しいことを始めたい学生には、色々な魅力を紹介してなにかひとつでもオリエンテーリングを始めるきっかけにせらうといいのではないのでしょうか。といっても余り熱心に説明したり写真をたくさんみせたりすると逆に引いてしまう人もいるので、臨機応変にしなければなりません。

- ・ オリエンテーリングは知らない人が多いのでまずは相手方が頭でイメージできるような伝え方が必要であると思う。そのようにしたら興味を持ちやすいと思う。

- ・ 各大学の宣伝がオリエンテーリングマガジンでできるとよい。

- ・ 新入生確保のことが頭にありすぎて新歓で「楽しむ」ことを全面に出しすぎた結果、競技派が少なくなりました。来年は新歓の仕方を変えていかなければと考えている。



ご協力ありがとうございました。

- ・ 椋山女学園大学
- ・ 北海道大学
- ・ 宮城学院女子大学
- ・ 津田塾大学
- ・ 千葉大学
- ・ 早稲田大学
- ・ 横浜国立大学
- ・ 岩手大学
- ・ 一橋大学
- ・ 電気通信大学
- ・ 名古屋大学
- ・ 京都大学

(小野盛光)